

infoNet®

株式会社インフォネット

STOCKCODE:4444

2022年3月期 第1四半期決算説明資料



ONE STOP SERVICE
InfoNet Inc. All Rights Reserved.

1. 当社の事業と私たちの社会的使命 p.3
2. 2022年3月期 第1四半期 TOPICS p.11
3. 2022年3月期 第1四半期決算概況 p.22
4. SUMMARY p.35

1. 当社の事業と 私たちの社会的使命

ONE STOP SERVICE

調査・分析からデザイン・システム開発、運用サポートまで一貫して行う
ワンストップサービスで
安定性の高いサービスの提供



SaaS型CMS市場

5年連続シェア No.1※

※1 出典：ITR「ITR Market View：ECサイト構築／CMS／SMS送信サービス／電子契約サービス市場2020」 SaaS型CMS市場：ベンダー別売上金額推移およびシェア(2015～2019年度予測)

主に中堅企業～大手企業・公共団体から支持され、コーポレートサイトを中心に制作実績1,300サイト以上。※2

(infoCMS導入実績500サイト以上。※2)

※2 当社調べ

01



RESEARCHING & ANALYZING

調査・分析

02



PLANNING & PRODUCING

企画・プロデュース

03



WEB DESIGN
SYSTEM DEVELOPMENT

WEBデザイン構築
システム開発

05



MEASURING & IMPROVING

効果測定・改善施策

04



OPERATION SUPPORT

運用サポート

プラスαの
成果創出へ

私たちの社会的使命

コーポレートサイトをプラットフォームとした

WEBマーケティング、DX戦略を総合的に支援し、

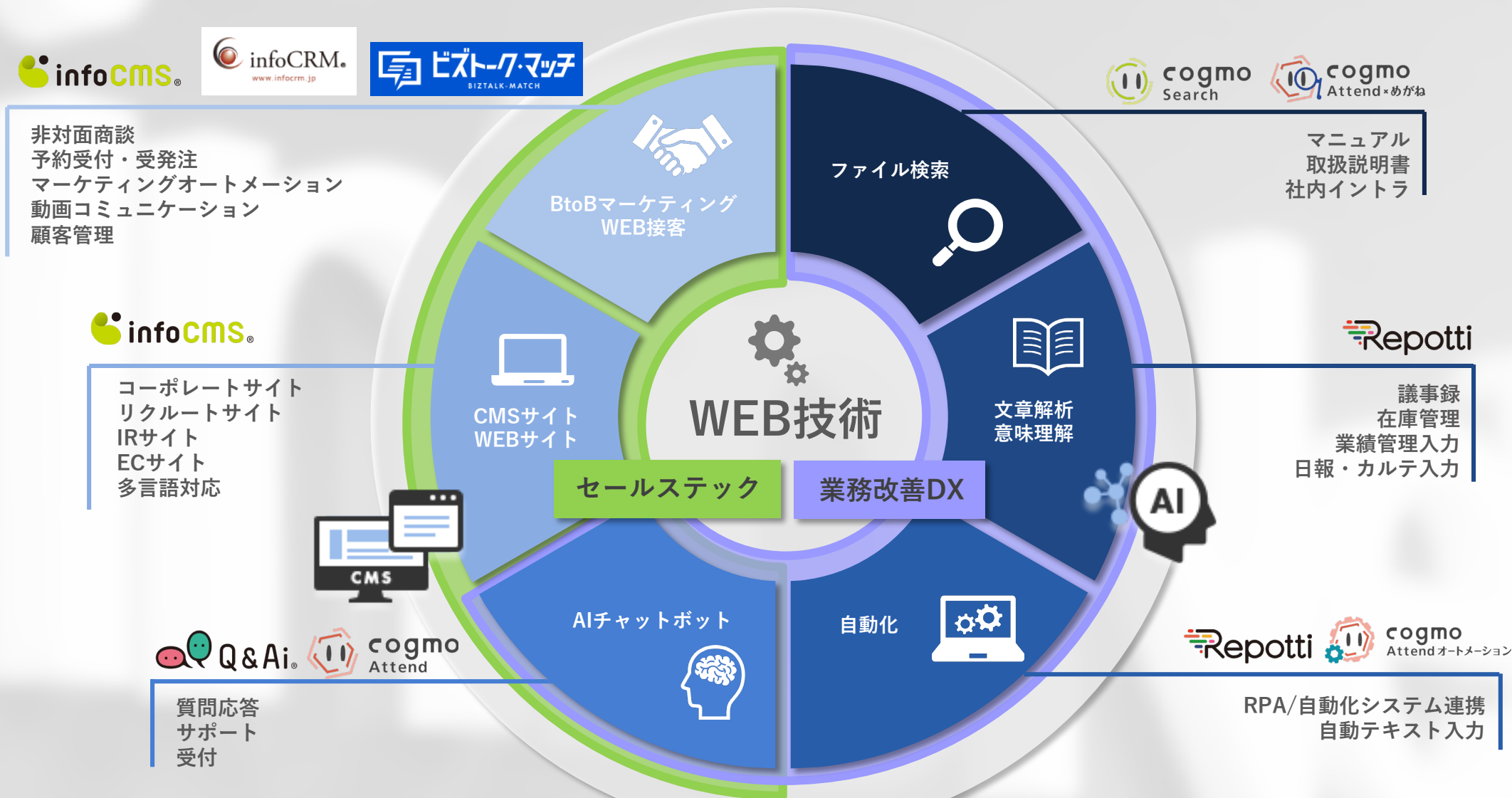
顧客が目指す成果を創出することが、私たちの社会的使命です。

1. グループ概要

商号	株式会社インフォネット（英語表記：infoNet inc.） <証券コード：4444>		
所在地	本社 東京都千代田区大手町1-5-1 大手町ファーストスクエア ウェストタワー2F 福井支社 福井県坂井市丸岡町ソフトパークふくい 7-1-21 佐賀支社 佐賀県佐賀市中の小路 1-14 佐賀新聞中央ビル4F 大阪支社 大阪府大阪市中央区南本町2-4-16本町デビスビル7F		
設立年月日	2002年10月15日	資本金	26,591万円
代表取締役社長	岸本 誠	従業員数	単体102名 連結143名（2021年5月末現在）
事業内容	WEBサイト構築 CMSサイト構築 システム開発 ホスティングサービス ASPサービス 広告デザイン・印刷 映像制作		

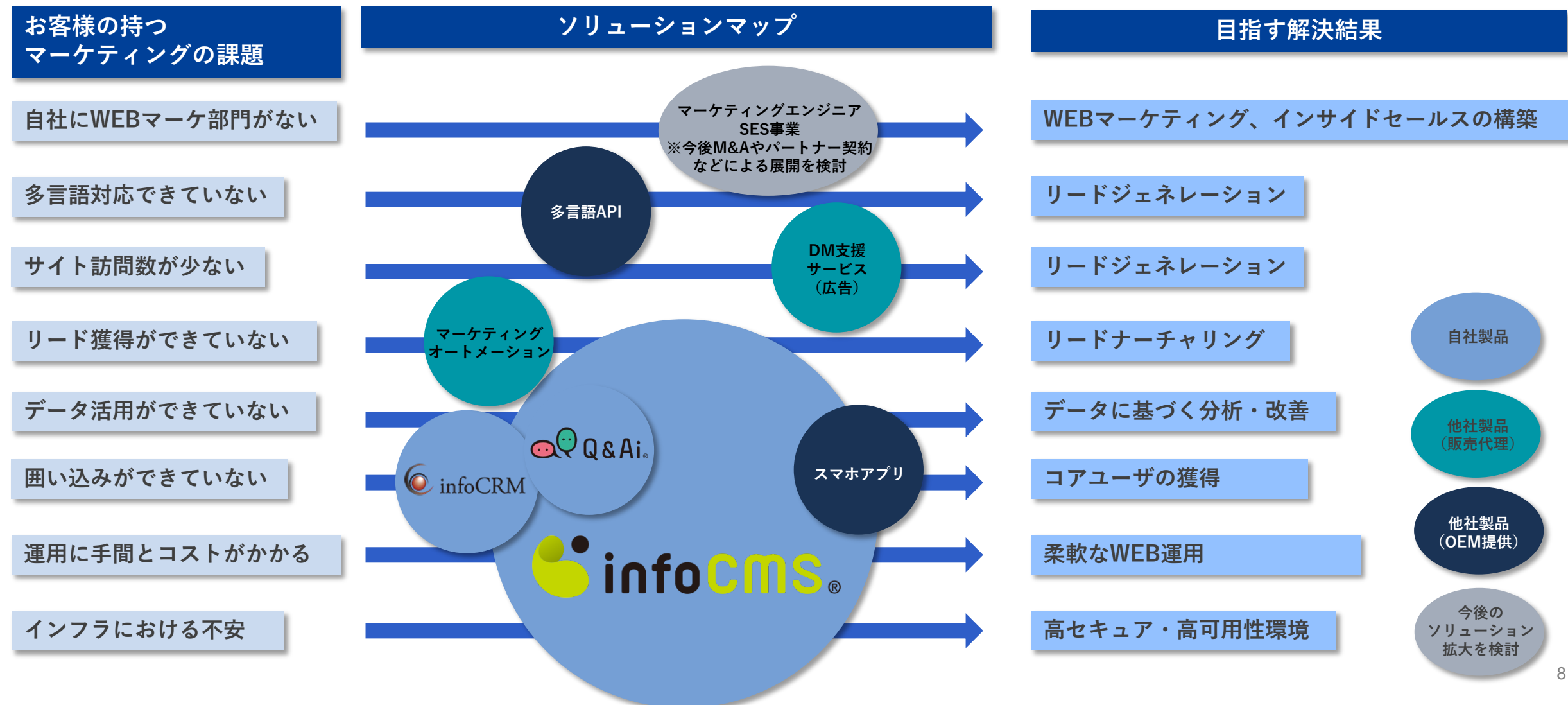
商号	株式会社アイアクト <非上場>		
設立年月日	1999年6月18日	資本金	1,900万円
代表取締役社長	笠井 隆義		
事業内容	・サイト制作・運用、CMS構築・運用 ・WEB戦略立案&コンサルティング ・WatsonやAIを活用したプロダクト開発 ・AIチャットボットサービス、検索サービス ・コンテンツマーケティング&プロモーション ・データ&アナリティクス ・AI導入支援		

1. 顧客のマーケティング課題をWEB技術でトータルサポートする ■ infoNetグループのソリューション領域と顧客ニーズ

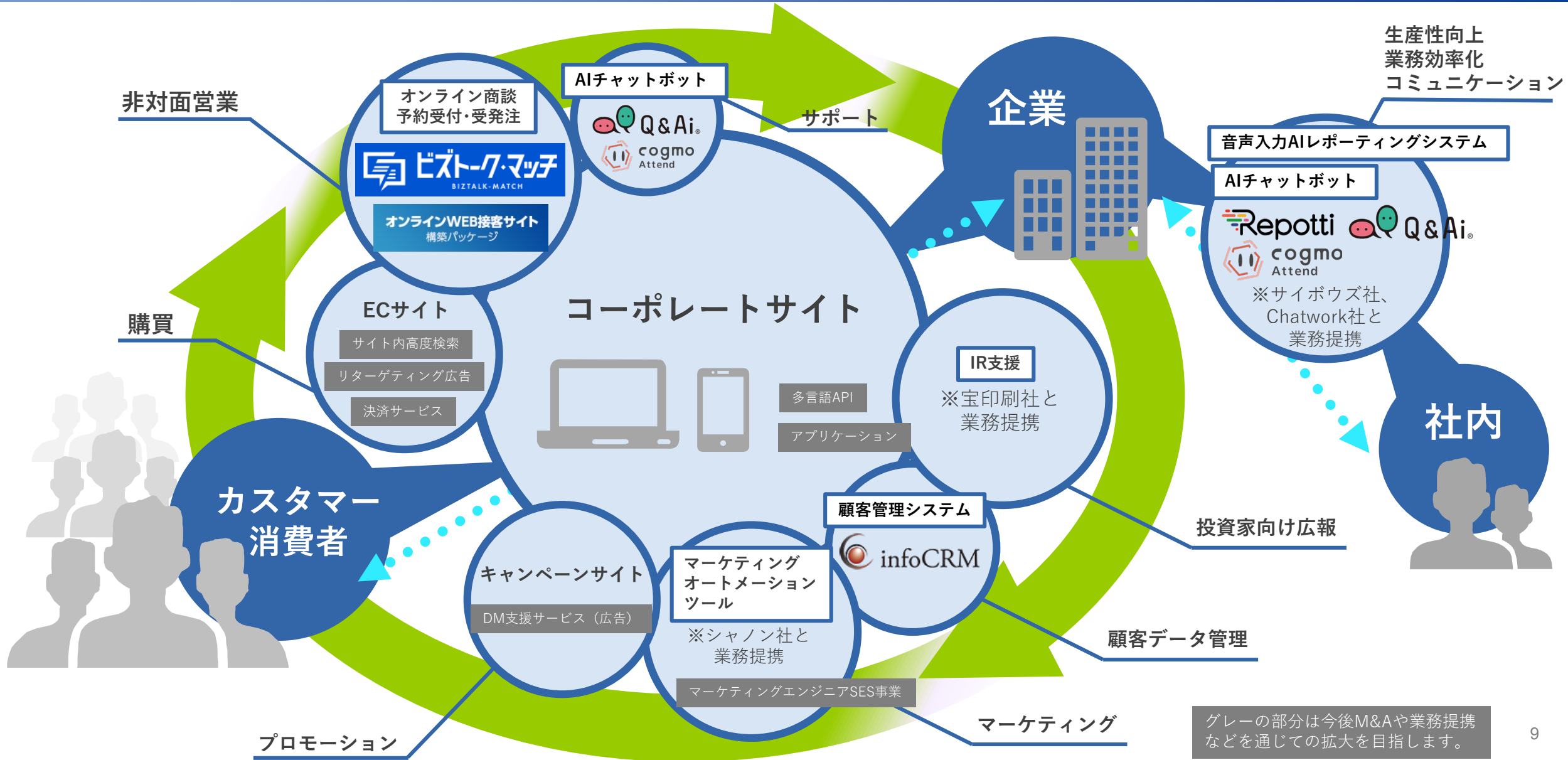


1. 顧客の課題に対するソリューションマップ

WEBマーケティングに対するあらゆる課題に対応できるソリューション拡大を目指します。

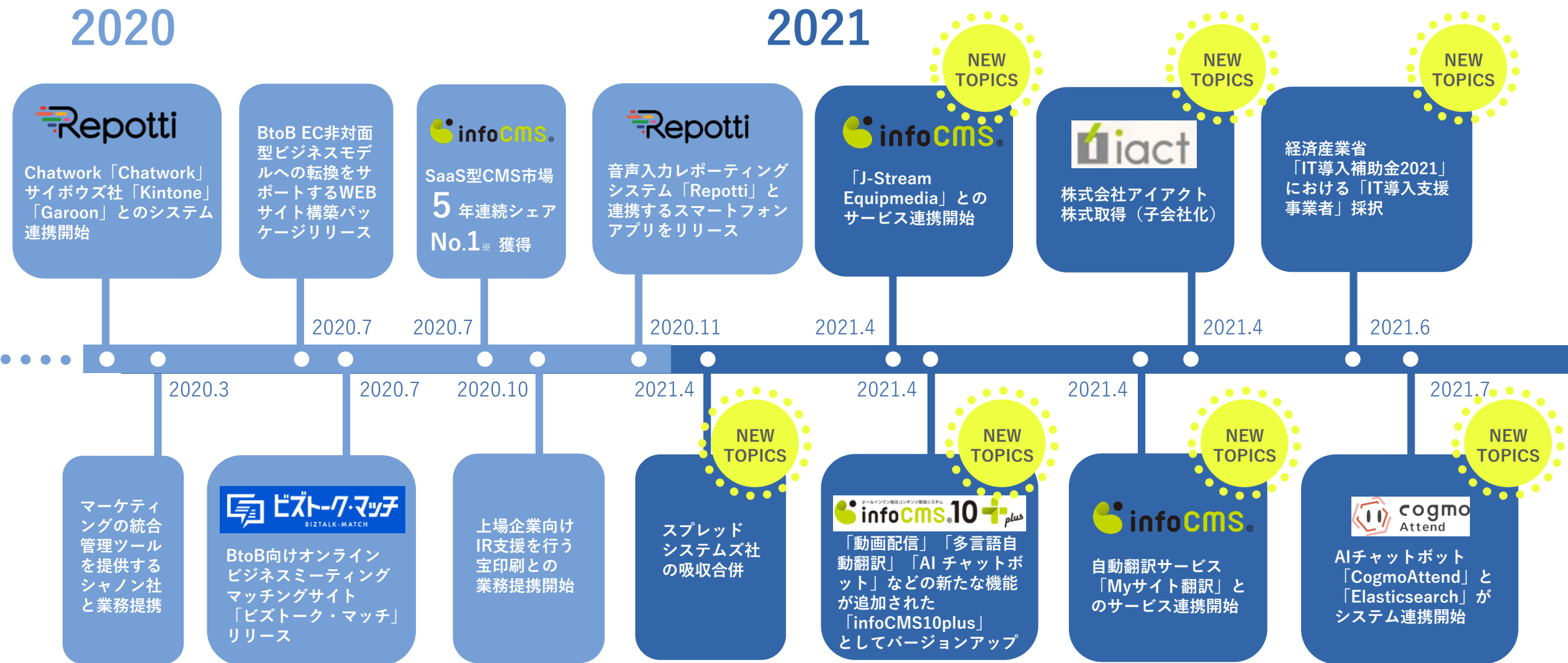


1. 当社グループが目指す、コーポレートサイトを軸とした総合的なWEBマーケティングのイメージ



グレーの部分は今後M&Aや業務提携などを通じての拡大を目指します。

1. WEBマーケティング総合支援に向けたソリューション拡大のあゆみ infoNet®



2. 2022年3月期 第1四半期 TOPICS

トピックス

1

株式会社アイアクトの株式を取得しました。

(子会社化)



WEBコミュニケーションにおける高いコンサルティング力と独自のWEB技術により
当社同様に顧客課題の解決に強みを持ち、WEBコミュニケーションサービス、人工知能・
コグニティブサービスを展開している株式会社アイアクトの100%株式を取得し、子会社化しました。

- ✓ WEBマーケティングにおけるサービスの強化および相互の技術力がより研鑽されることを期待
- ✓ 相互の顧客基盤を活かし顧客層の拡大と強固な収益基盤の構築を期待

アイアクト自社開発プロダクト



負担の多い構築を運用を代行し、顧客が「やりたいこと」に集中できるチャットボット。

特徴
01

AIの優秀さ・UI/UX全部入り

言語処理能力の高いWatsonにより質問の意味を正しく理解。キーワードマッチ、ボタンシナリオ、AI一問一答、分岐・聞き返しがすべて可能。

特徴
02

プロの構築・プロのサポート

専属のプロが導入から運用を担当し顧客の目的に沿った高度な会話設計構築を実現。

特徴
03

DX・将来性

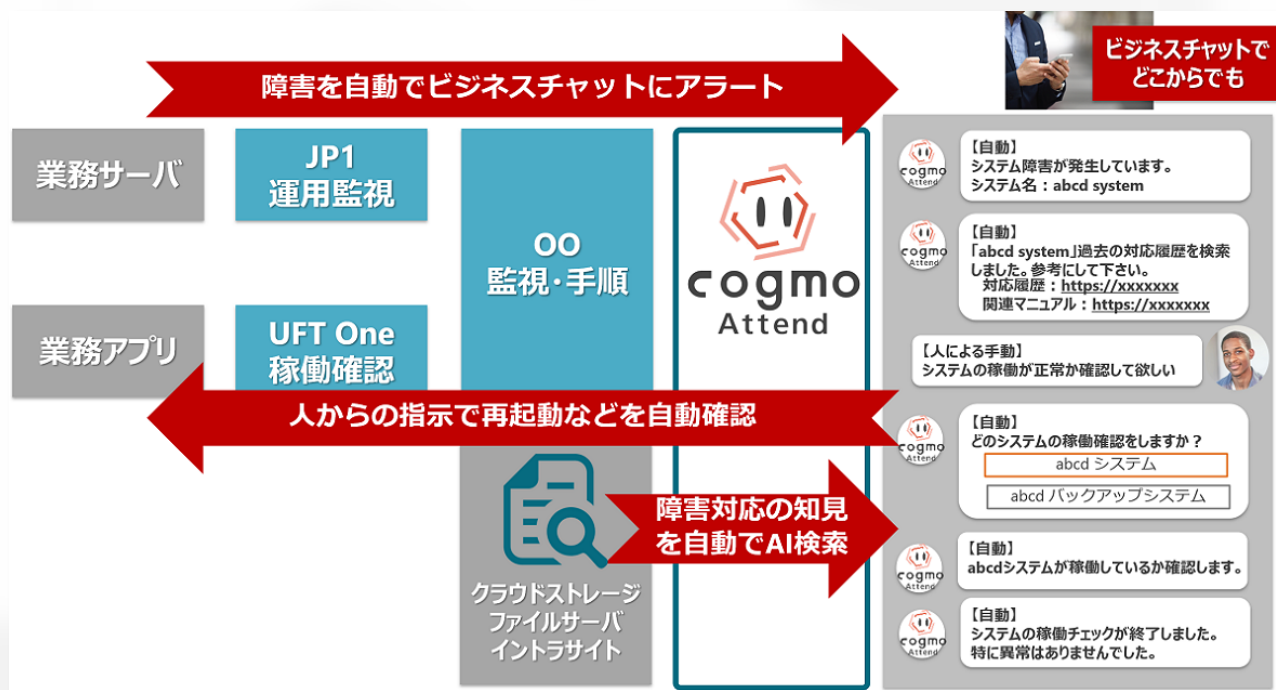
様々なシステムと連携が容易。用意した回答を返すだけではない拡張性のあるプラットフォームとして利用可能。



アイアクト導入実績 <AI>



DXな障害対応を実現するお客様企業PoC



システムのクラウド化が進み基幹システムの刷新を経営課題とされる企業が増えています。基幹システムの早急な刷新は経営リスク、ITマネジメントの継続性の観点から必ずしも最適な方法ではなく、別の解決策が求められていました。

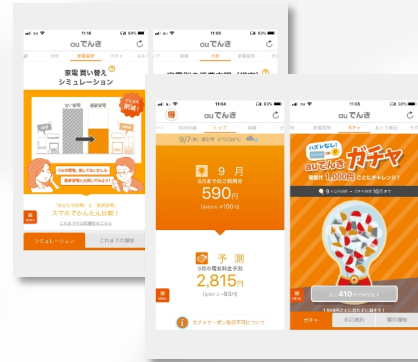
この解決策として、「Cogmo Attend」の活用により既存のITマネジメントに手を加える部分は最小限とし、各機能をAIチャットボットを中心とした、ITMS (ITマネジメントサービス)、RBA (Run Book Automation)、ビジネスチャットで連携させることで、最も負荷のかかる障害対応の効率化を実現いたしました。

アイアクト導入実績 <WEB/CMS>

企業



株式会社第一興商様



KDDI株式会社様 auでんきアプリ



東映株式会社様 新卒採用サイト

公共・公益



文部科学省様



文化庁様

他多数

2

スプレッドシステムズ株式会社を 吸収合併いたしました。

当社子会社であったスプレッドシステムズ社は、高い技術力を背景に、フロントエンジニアリング業務やディレクション業務を主軸に受託開発・SES等を請け負うことで数々の大手企業のWEBキャンペーンサイトおよびアプリケーションサービスの開発に関与してきました。

今回の吸収合併によって今後は一体となり、より強固なシナジーを発揮し、さらなる充実したサービスの提供を目指して参ります。

3

「infoCMS10plus」 リリース

テレワークやオンライン化が益々普及し、WEBサイトからの情報収集にかかる時間や取得する情報量が増加傾向にあります。そのような状況下においてWEBサイトを戦略的に活用するためのサービスを拡充した「infoCMS10plus」をリリースしました。

- ✓ 「動画配信」「多言語自動翻訳」「AIチャットボット」の新たな機能を追加
- ✓ ニューノーマル時代のWEBサイトを戦略的な活用を支援

4

infoCMS10と自動翻訳サービス 「Myサイト翻訳」がサービス連携開始

新型コロナウイルスの影響等により、インバウンドビジネスにも大きな変化が生じ、対面型から非対面型ビジネスへの移行に伴い多言語サイトを整備する動きが高まっています。従来の多言語サイト制作は翻訳したい言語ごとにページ作成が必要でしたが、今回のサービス連携によりWEBサイトをワンクリックするだけで多言語化することが可能になりました。

- ✓ 多言語サイト制作の膨大なコストと工数の削減を実現
- ✓ 災害時や緊急時など即時性が求められるサイト更新にも対応
- ✓ 「Myサイト翻訳」は英語、簡体字中国語、繁体字中国語、韓国語の基本4言語ほか36言語に対応しており、定額制で予算編成がしやすいため全国300以上の自治体に採用、公共性の高いサイトへの実績も豊富
- ✓ グローバル化を見据えた新たなビジネスチャンスの創出、マーケティングの効果的なWEB活用が可能に

5

infoCMS10と動画配信プラットフォーム 「J-Stream Equipmedia」がサービス連携開始

新型コロナウイルスの影響や5Gの普及等によるデジタル化の加速に伴う動画を活用したWEBマーケティングのニーズに応えるため、株式会社Jストリームの提供する動画配信プラットフォーム「J-Stream Equipmedia」とのサービス連携を開始しました。

- ✓ 本サービス連携により、WEBサイトに掲載した動画を、製品・サービス紹介やオンラインセミナー、決算説明会等、社外への情報発信に活用可能に
- ✓ eラーニングでの社員研修や社内イントラサイトでの社内情報共有などにも活用可

6

Japan IT Week春2021 「Web & デジタルマーケティングEXPO【春】 出展

2021年5月26日～28日に東京ビッグサイトにて行われた、マーケティングオートメーション、AI(人工知能)、WEBマーケティング、アドテク・動画広告など、マーケティングに関するソリューションが一堂に出展する専門展「Web & デジタルマーケティングEXPO【春】」に出展いたしました。

- ✓ 「infoCMS10plus」をはじめ、「Q&Ai」「Repotti」のデモンストレーションを実施
- ✓ ブース内に手指消毒液を設置するほか、スタッフの体温測定、体調管理を実施するなどの感染症対策を徹底して対応



7

経済産業省「IT導入補助金2021」における 「IT導入支援事業者」採択

経済産業省が実施する「IT導入補助金2021」において、「IT導入支援事業者」に採択されました。また、「infoCMS10plus BtoB向けE Cサイトパッケージ」が補助金対象のITツールとして認定されました。

- ✓ 認定されたツールはWEBサイトを利用した非対面型の受発注を行うことができるBtoB向けECサイトであり、製品やサービスなどの検索機能、在庫管理機能、クレジット決済機能が標準装備
- ✓ 中小企業、小規模事業者様の業務効率化・生産性向上をサポート

3. 2022年3月期 第1四半期決算概況

当社の収益構造

受託開発構築によるフロー収益



サブスクリプション収益
(月額利用の積み上げ式収益)

顧客数の増加に伴い
月額利用収益も増加する



WEB/CMS 関連事業

売上高前期比(QtoQ)
+188,221千円
ストック収益前期比(QtoQ)
170.0%
(グループ全体)

AI 関連事業

売上高前期比(QtoQ)
+31,552千円
ストック収益前期比(QtoQ)
1575.5%
(グループ全体)

総売上高

前期比(QtoQ)
272.8%となる
346,967千円を達成
ストック(月額収益)
フロー(受託開発)とも
前期を大幅に上回る。

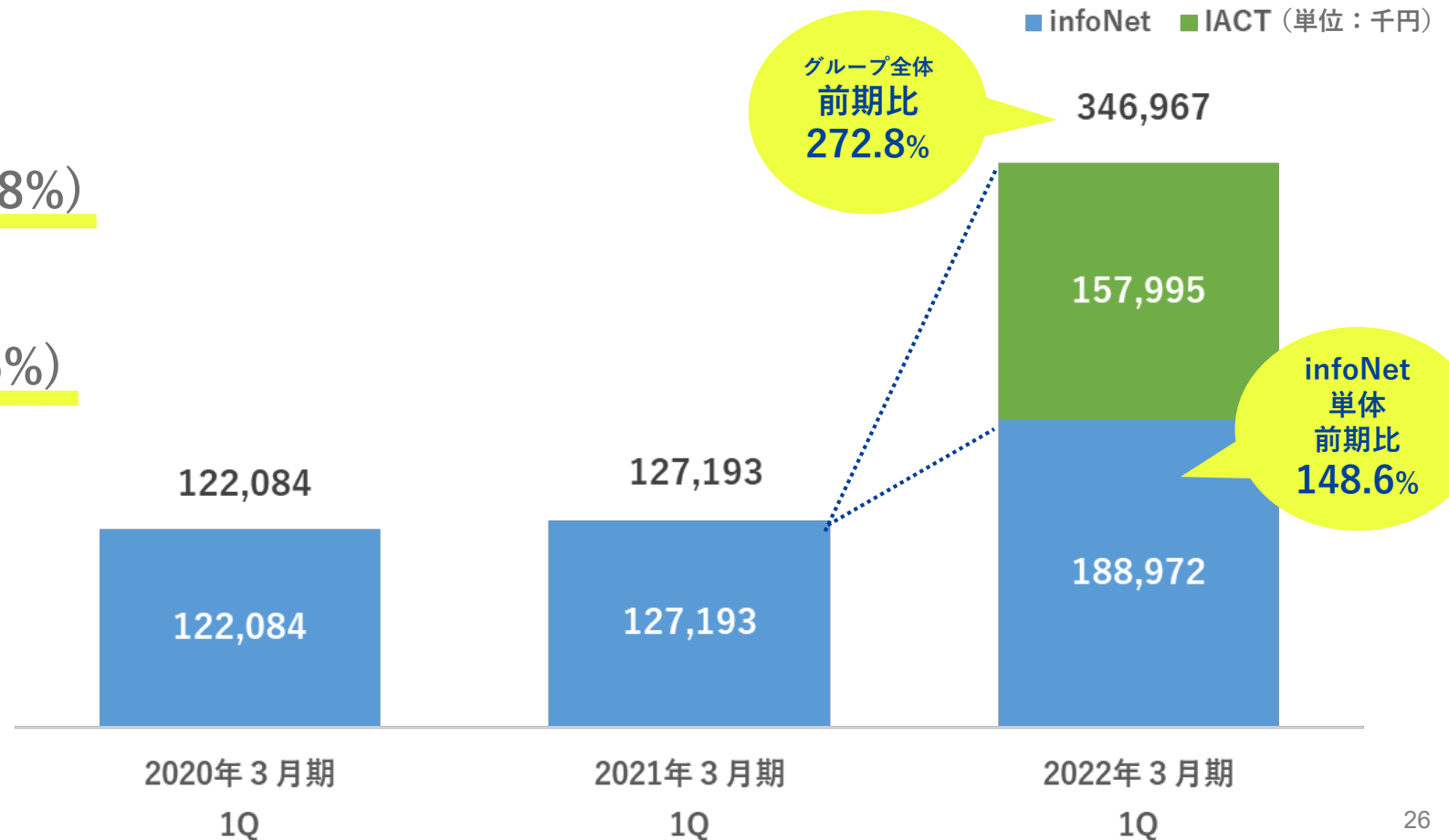
受託開発 受注高

infoNet単体 前期比(QtoQ)
+71,717千円増加
グループ全体で
前期比(QtoQ)
401.4%

売上高実績 グループ内訳 (QtoQ)

グループ全体
+219,774千円の増加(前期比272.8%)

infoNet単体
+61,779千円の増加(前期比148.6%)



※2021年3月期以前のアイアクトの実績は連結対象期間外であるため開示は差し控えさせていただきます。

売上高実績 ストック/フロー内訳 (QtoQ)

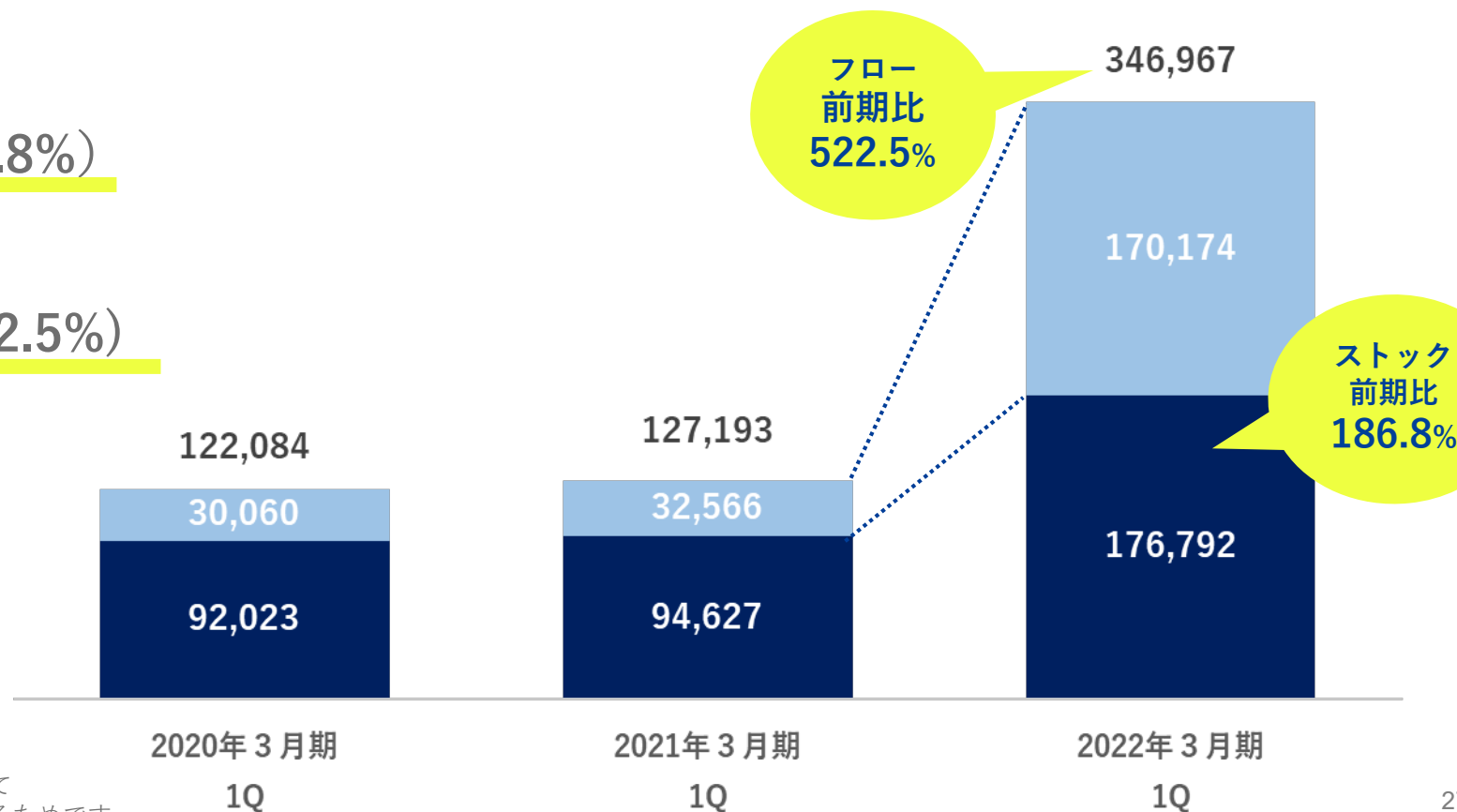
■ ストック (月額収益) ■ フロー (受託開発) (単位: 千円)

ストック (月額収益)

+82,165千円の増加 (前期比186.8%)

フロー (受託開発収益)

+137,608千円の増加 (前期比522.5%)



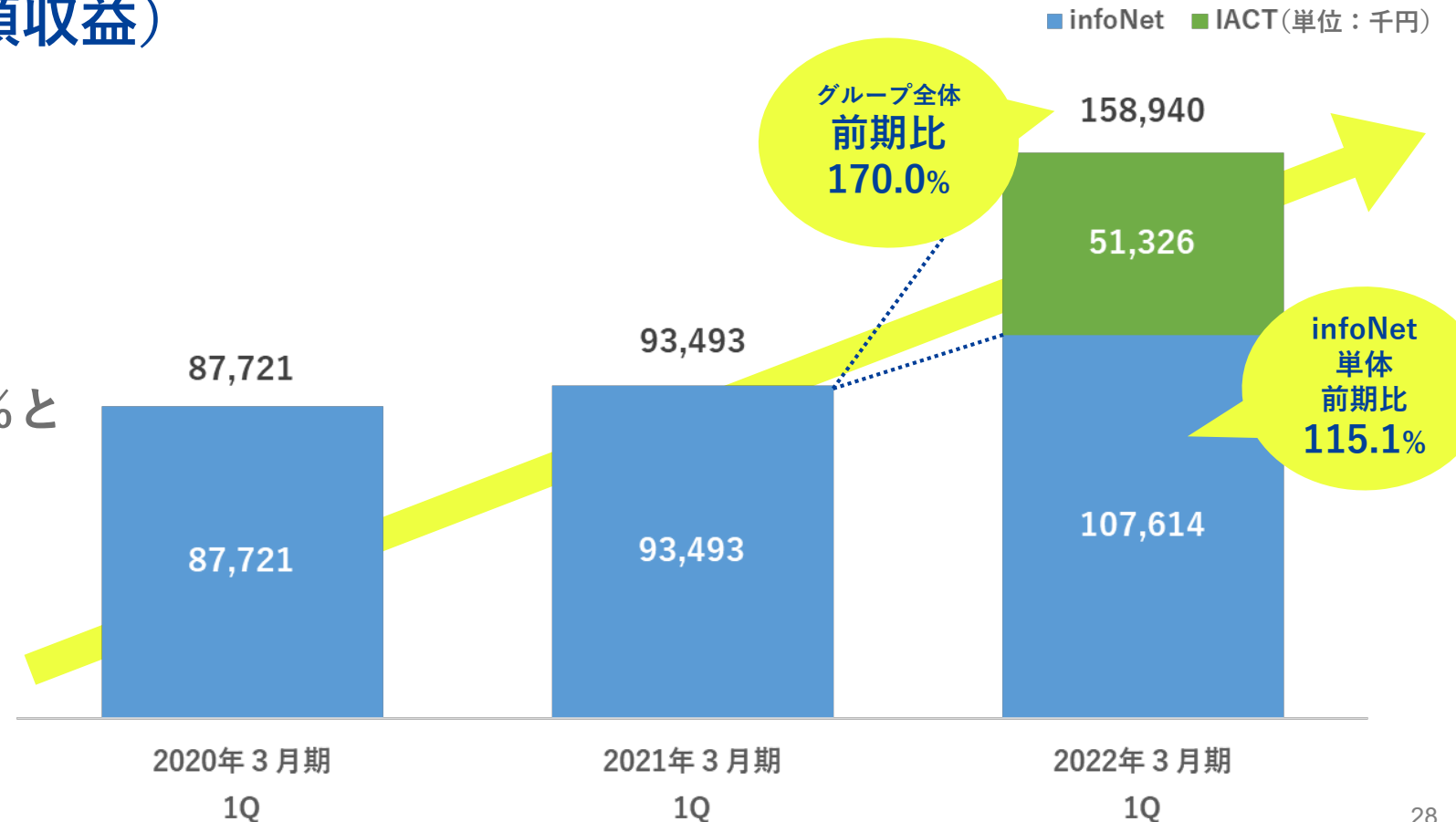
※2021年3月期以前のアイアクトの実績は連結対象期間外であるため開示は差し控えさせていただきます。
 ※ストック (月額収益) とフロー (受託開発) の合計に誤差が出ておりますが、グラフの各層の数値を千円未満切り捨てとしているためです。

ストック収益実績 WEB/CMS (QtoQ)

(月額収益)

infoNet単体では前期に対し
14,121千円の増加
前期比115.1%

アイアクトの月額収益が加わり
グループ全体では前期比170.0%と
大幅増加

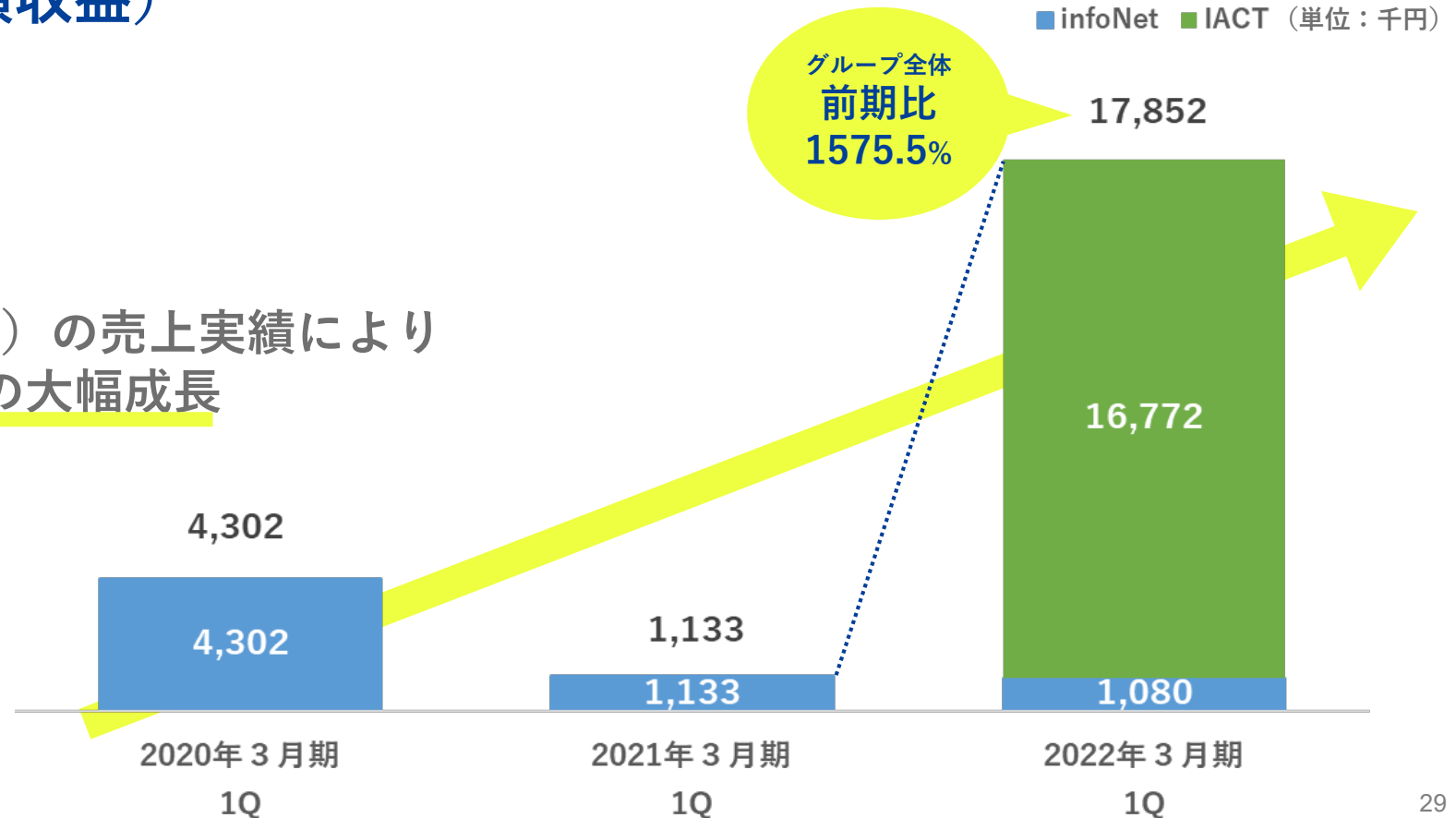


※2021年3月期以前のアイアクトの実績は連結対象期間外であるため開示は差し控えさせていただきます。

ストック収益実績 AI (QtoQ) (月額収益)

infoNet単体では前期に対し
53千円の減少

アイアクトの強みである
AIプロダクト (Cogmoシリーズ) の売上実績により
グループ全体では+16,719千円の大幅成長



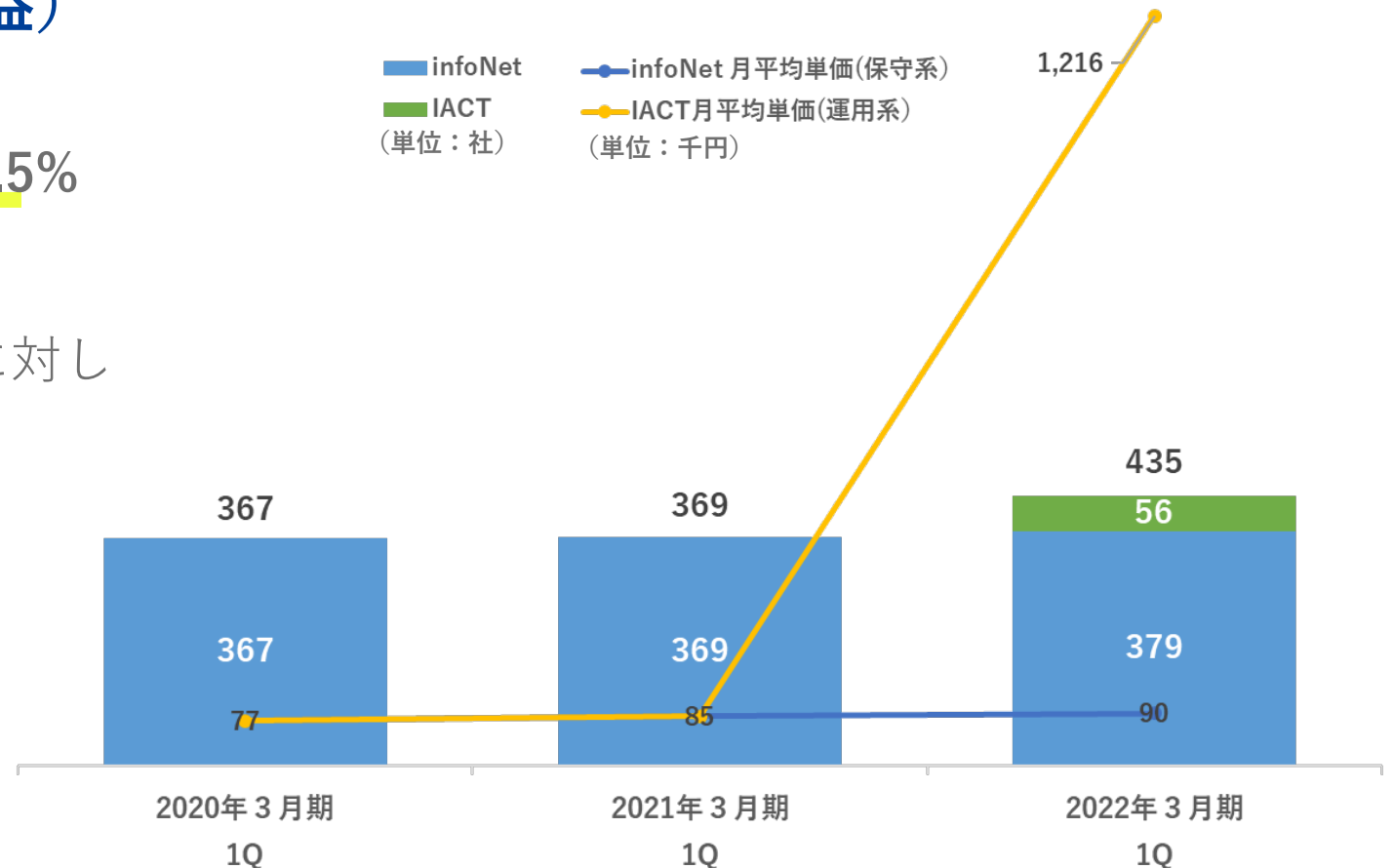
※2021年3月期以前のアイアクトの実績は連結対象期間外であるため開示は差し控えさせていただきます。

ストック収益請求社数推移 (QtoQ) (月額収益)

infoNet単体では前期に対し
+10社の増加、月平均単価前期比106.5%

infoNetの月額収益は主にinfoCMSの
月額利用料および保守料金であるのに対し
アイアクトは主にWEB運用代行等に
かかる月額収益が占める。

■ infoNet (単位：社)
■ IACT (単位：社)
—●— infoNet 月平均単価(保守系) (単位：千円)
—●— IACT 月平均単価(運用系) (単位：千円)



※2021年3月期以前のアイアクトの実績は連結対象期間外であるため開示は差し控えさせていただきます。

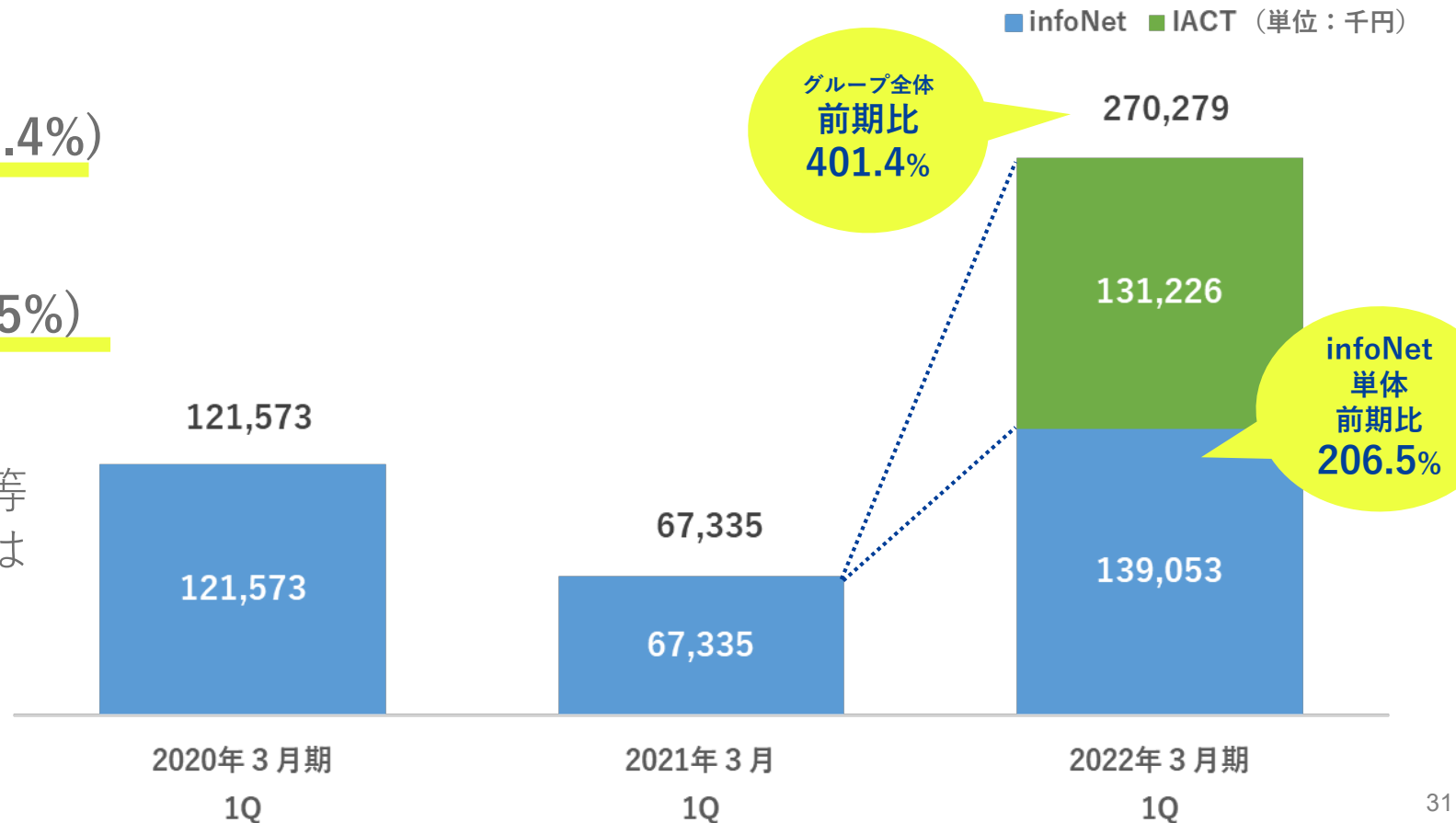
受託開発受注高実績 (QtoQ)

グループ全体
+202,944千円の増加(前期比401.4%)

infoNet単体
+71,718千円の増加(前期比206.5%)

緊急事態宣言発令の影響により顧客の企業活動のペースダウン等から受注が低迷した前期の状況は脱し、受注は堅調。

※2021年3月期以前のアイアクトの実績は連結対象期間外であるため開示は差し控えさせていただきます。



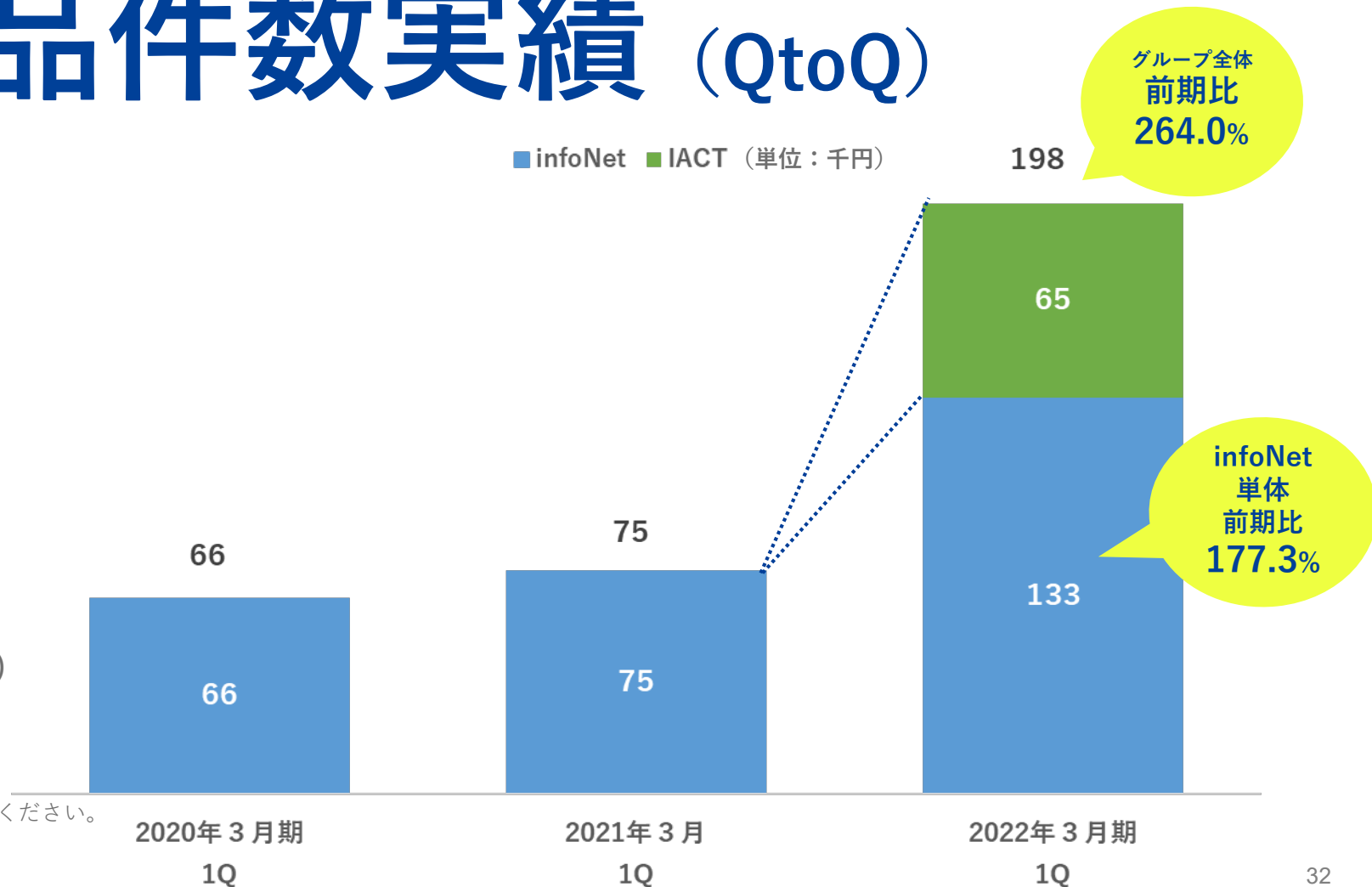
受託開発納品件数実績 (QtoQ)

■ infoNet ■ IACT (単位: 千円)

グループ全体
+123件の増加(前期比264.0%)

infoNet単体
+58件の増加(前期比177.3%)

収益認識基準の変更に伴い、開発案件の工期や進捗度等に応じ会計計上した仕掛案件数
44件(infoNet 31件/アイアクト13件)



※当社グループは当第1四半期連結会計期間の期首より会計方針を変更しております。詳しくは2022年3月期第1四半期決算短信(添付資料)をご参照ください。

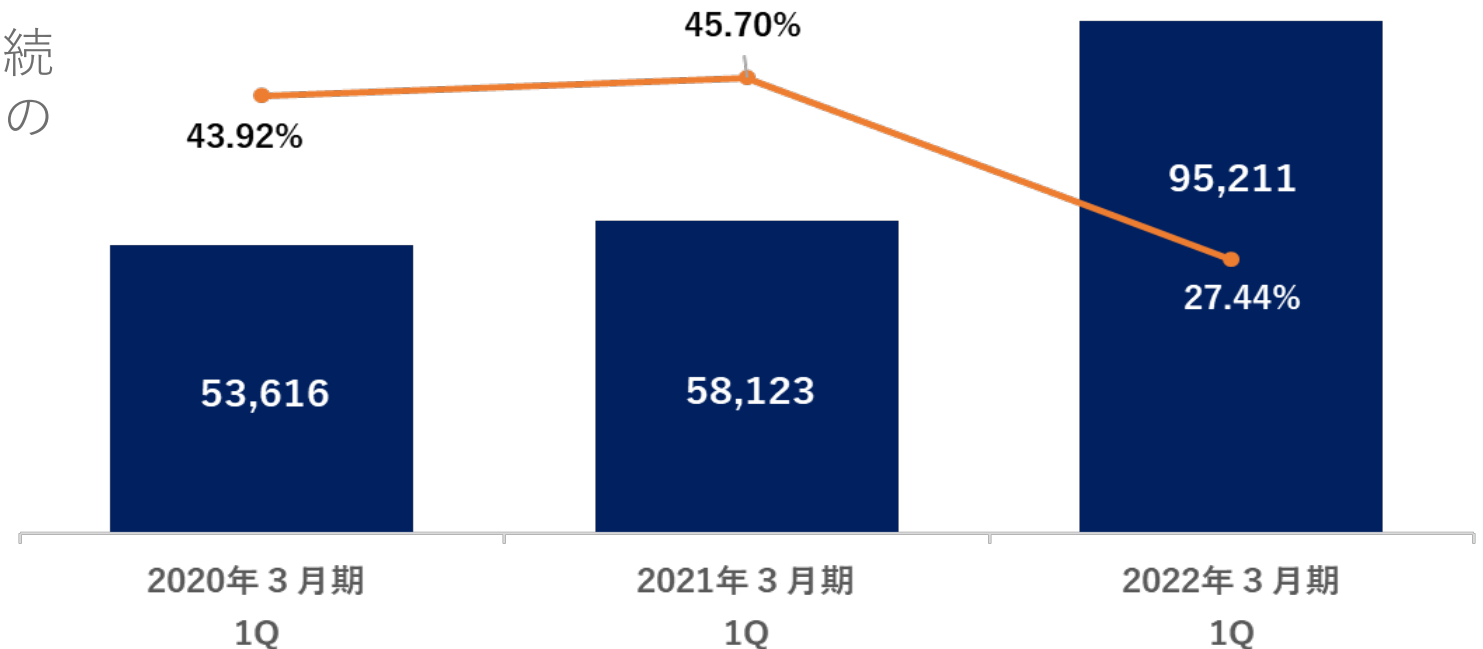
※2021年3月期以前のアイアクトの実績は連結対象期間外であるため開示は差し控えていただきます。

売上総利益実績 (QtoQ)

■ 売上総利益 (単位：千円) ● 売上総利益率

売上高の増加に伴い売上総利益額は
前期に対し37,088千円の増加

一方で受託案件の大型化傾向が継続
しており、外注コスト等製造原価の
増加に伴い売上総利益率は
▲18.26%の減少



※2022年3月期はアイアクトの実績を含む連結業績です。

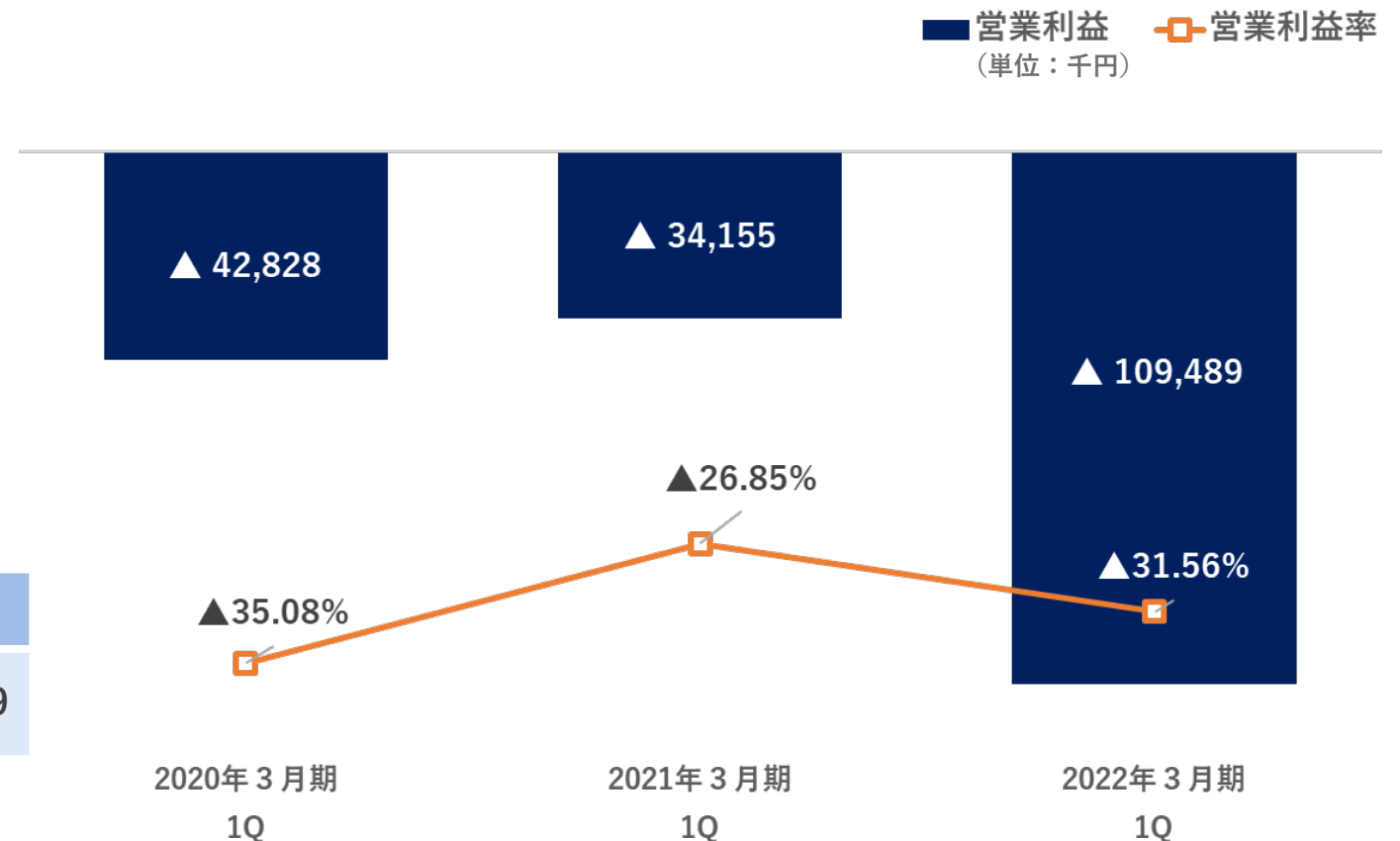
営業損益実績 (QtoQ)

前期に対し、
▲75,334千円(▲4.71%) の減少

アイアクト株式取得に伴う取得費用、
ファイナンス手数料等初年度特有コスト
等が影響し、営業損益は前期を大幅に
下回る。

	infoNet	IACT	連結仕訳	合計
営業 損益	▲77,314	14,907	▲47,083	▲109,489

※2022年3月期はアイアクトの実績を含む連結業績です。



4. SUMMARY

サマリー

4. SUMMARY

BS増減比較

※2022年3月期1Qはアイアクトの
2021年4月1日～2021年6月30日の
業績を含む連結業績です。

infoNet®

(千円)	①2021年3月期 1Q	②2022年3月期 1Q	増減額 ② - ①
流動資産	897,764	1,078,719	180,955
固定資産	161,266	654,694	493,428
資産合計	1,059,030	1,733,414	674,384
流動負債	165,746	443,401	277,655
固定負債	87,149	493,836	406,687
負債合計	252,896	937,237	684,341
資本金	262,323	265,911	3,588
資本剰余金	242,323	245,911	3,588
利益剰余金	301,487	284,353	▲17,134
純資産合計	806,134	796,176	▲9,958
負債・純資産合計	1,059,030	1,733,414	674,384

※合計に誤差が出ておりますが、それぞれの数値を千円未満切り捨てとしているためです。

4. SUMMARY

PL増減比較

※2022年3月期1Qはアイアクトの
2021年4月1日～2021年6月30日の
業績を含む連結業績です。

infoNet®

(千円)	①2020年3月期 1Q	②2021年3月期 1Q	③2022年3月期 1Q	増減額 ③ - ②
売上高	122,084	127,193	346,967	219,774
WEB/CMS関連事業	117,420	125,280	313,501	188,221
AI関連事業	4,664	1,913	33,465	31,552
売上総利益	53,616	58,123	95,211	37,088
売上総利益率	43.91%	45.70%	27.44%	▲18.26pt
営業利益	▲42,828	▲34,155	▲109,489	▲75,334
営業利益率	▲35.08%	▲26.85%	▲31.56%	▲4.71pt
経常利益	▲49,396	▲34,270	▲124,950	▲90,680
経常利益率	▲40.46%	▲26.94%	▲36.01%	▲9.07pt
当期純利益	▲34,582	▲25,322	▲102,237	▲76,915
当期純利益率	▲28.32%	▲19.91%	▲29.47%	▲9.56pt

※WEB/CMS関連事業売上高とAI関連事業売上高の合計に誤差が出ておりますが、それぞれの数値を千円未満切り捨てとしているためです。

免責事項

本資料は、情報提供のみを目的として作成されたものであり、当社の有価証券の売買の勧誘を構成するものではありません。本資料に含まれる将来予測に関する記述は、当社の判断及び仮定並びに当社が現在利用可能な情報に基づくものです。将来予測に関する記述には、当社の事業計画、市場規模、競合状況、業界に関する情報、成長余力及び財務指標並びに予測数値が含まれます。将来予測に関する記述は、あくまでも当該記述がされた時点におけるものであり、将来変更される可能性があります。将来予測に関する記述によって表示又は示唆される将来の業績や実績は、既知又は未知のリスク、不確実性その他の要因により、実際の業績や実績は当該記述によって表示又は示唆されるものから大きく乖離する可能性があります。

当社は、財務上の予想値の達成可能性について明示的にも黙示的にも何ら保証するものではありません。

また、当社は、本資料の日付以降の事象及び状況の変動があった場合にも、本資料の記述を更新又は改訂する予定はありません。

本資料には、独立した公認会計士又は監査法人による監査を受けていない、過去の財務諸表又は計算書類に基づく財務情報及び財務諸表又は計算書類に基づかない管理数値が含まれています。

本資料には、当社の競争環境、業界のトレンドや一般的な経済動向に関する統計情報及び調査結果、外部情報に由来する他社の情報が含まれています。当社は、これらの情報に由来する情報の正確性及び合理性について独自の検証を行っておらず、いかなる当該情報についてもその正確性及び合理性を保証するものではありません。また、他社に係る事業又は財務に関する指標は、算定方法や基準時点の違いその他の理由により、当社に係る同様の指標と比較対照性が無い可能性があります。